



第1号
平成24年12月25日
発行
あがたの里まちづくり推進協議会
県主公民館
県主地区社会福祉協議会

新生「みんなの県主」発行にあたり

県の里まちづくり推進協議会

会長 岡田章文

平成24年も後わずかとなりました。本年は、井原市が進める協働のまちづくりの組織づくり（県の里まちづくり推進協議会）を具体化し、一歩前に進めることができた年であったと感じております。

まちづくりを進めていく上で一番重要なことは、地域の皆様が様々な情報を共有し、心をひとつにしてそれぞれの地域課題に取り組みることだと思います。地域の将来のあり方や地域を支えていく子どもたちのごこと、更には防災、福祉、環境問題など、安心して暮らすことができる地域づくり

に情報提供は欠かせません。これまで、私たちの地域では、社会福祉協議会が発行する「みんなの県主」と公民館が発行する「公民館だより」が主な情報紙としてありました。

「みんなの県主」は、平成元年の初号から今日に至るまで福祉を中心とした情報を皆様に提供し、何物にも代えられない情報紙の歴史を刻んでまいりました。また「公民館だより」は、発行の数こそ少ないものの、公民館行事を主な内容とした紙面が届けられ、地域内の動向を知ることができました。

これらは、それぞれの組織のスタッフと発行にかかる経費もそれぞれの予算により別々に発行されてきました。

このような中で、県の里まちづくり推進協議会の設立を機会に、まちづくりのすべての情報を一つの紙面にまとめ、合理的に運営すべく、社会福祉協議会並びに公民館と協議をしてみました。

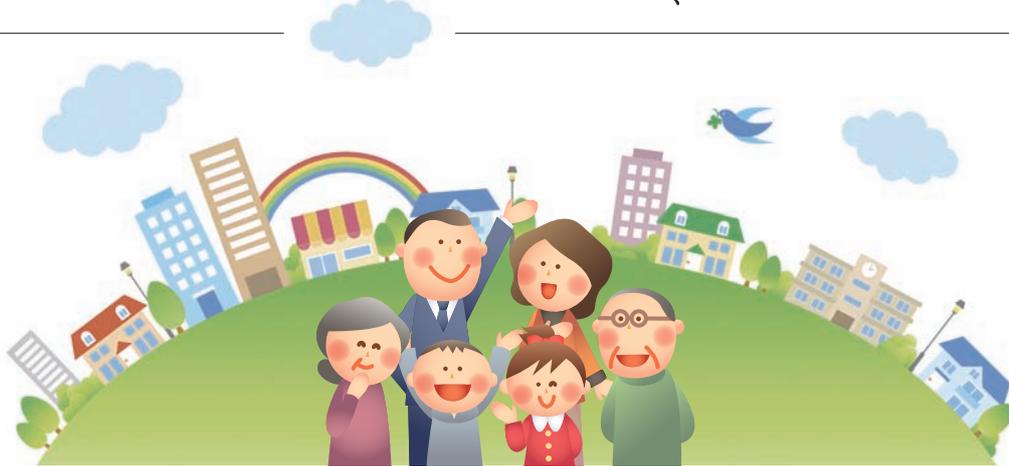
その結果、名称は「みんなの県主」を引継ぎ、内容は社会福祉協議会や公民館、自治会・消防団などすべての組織を対象として、発行することになりました。

紙面の統合によるメリットとしては、編集スタッフの労力軽減や発行に伴う経費節減、また、各戸へ配布していただいている自治会の皆様の手数の緩和などが考えられます。

今後とも、計画的に発行を継続し、さらに紙面を充実していきますので、皆様からの記事の提供や記事となる情報提供にご協力ください。

新生「みんなの県主」を

通して、地域の皆様の思いを結集し、より良いまちづくりを目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



鳥羽踊りの里

納涼盆踊り大会

鳥羽踊り保存会

副会長 藤森恵美子



「井原音頭」「やとさ」「備中ホイサ」の音楽が、鳥羽踊りの里納涼盆踊り大会の始まりを伝える8月13日の夜。県主小学校の校庭には、朝から準備された櫓（やぐら）や提灯（ちようちん）、そして、夜店がずらりと並んでいます。19時30分、にぎやかに盆踊りが始まりました。

櫓の周りに、三々五々集まる踊り子の皆さん。地域の方、そして伝承教室で一生懸命練習した子どもたち今年入ったばかりの一年生の踊りは、ほほえましく、見ていてつい笑みがこぼれました。

「鳥羽踊りの里県主」の盆踊り大会らしく、多くの方が、「一つ拍子」「三つ拍子」「梅が枝」「大和踊り」などを、長い伝統を感じながら、また、先祖を偲びな



がら、楽しまれていました。夜店からは少年団やPTAのお父さんお母さんの元気な声と子どもたちの歓声が響いていました。市長代理、国会議員、県議会議員の皆様もおいでくださり盆踊り大会を一段と盛り上げてくださいました。

心地よい音頭や音楽が鳴り響く中で、これからもより多くの方々へ愛され、毎年の盆踊り大会を楽しみにしてください。子どもたちも全員参加して、楽しんでくれるような盆踊り大会であってほしいと願いました。

児童クラブ



社協 蔵本哲治

毎年、恒例の児童クラブ支援事業を、社協、更生保護女性会、主任児童委員の方々のご協力を頂き、夏休み期間中の五日間児童クラブを訪問し実施しました。

今年も、子どもたちと一緒にゲームやおもしろ実験をしたり、炎天下の中グラウンドで、テイボールやホームラン競争をしました。外での遊びが少なかったためか、子どもたちは大汗をかきながら楽しんでいました。サンドイッチ作りでは、早く食べたい気持ちを押さえながら挟んでいました。



また、ソーメン流しでは、長さが約15メートルの竹樋の両サイドに子どもたちが立ち、流れてくるソーメンやトマトなどを、箸を上手に使い笑顔で口いっぱいにおぼっていました。

短い時間ではありましたが、子どもたちと一緒に私たちが楽しむことができました。そして、子どもたちの喜ぶ顔（笑顔）はいつ見ても良いものだと思えました。

これからも、子どもたちの喜ぶ顔を見るため、この児童クラブ支援事業を続けたいものです。

最後に、この事業にご協力くださいました皆様、平日でお忙しい中、大変お世話になりました。ありがとうございました。

鳥羽踊り保存会児童交流事業

鳥羽踊り保存会

会長 尾山立志

平素は、鳥羽踊り保存会に對しまして、皆様のご理解とご協力を賜りこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、児童交流は、後鳥羽上皇との関係で、隠岐郡海士町の海士小学校及び福井小学校と平成9年から交流が始まり今年で16年を迎えました。

今年、児童13名、引率者9名の参加を得て8月24日から26日の2泊3日の日程で海士町を訪ねました。

県主から8時間の移動にも、児童たちは疲れを見せず、副町長、教育長、海士町のスタッフ及び児童たちの歓迎会にのぞみました。その後、資料館、隠岐神社、腰掛の石を見学しました。隠岐神社では平櫛田中作の狛犬(こまいぬ)を拝見しました。この狛犬は地元の人でもなかなか見ることができないとの

ことで、児童達は後鳥羽上皇だけでなく、平櫛田中とのつながりもあることを認識したと思います。

夕食はバーベキューで、参加者たちは、海士町の皆さんのおもてなしで、海の幸を堪能(たんのう)しました。両児童たちは話が盛り上り、和やかなうちに初日を終えました。

二日目は、ラジオ体操から始まりイカ割り体験(イカの一夜干し作り)、海底を展望するアマンボウへの乗船、水のきれいなビーチでの海水浴と順調に予定を終えました。この交流事業のメインイベントであり、海士町の夏の最大の行事であるキンニヤモニヤ祭りでは、キンニヤモニヤ踊りを1時間踊り続け、心地よい汗をかいた後、海から打ち上げられる花火に、大人も児童も歓声を上げながら見

入って大満足で二日目が終了しました。

いよいよ最後の日の児童たちは、お別れ会後、菱浦港で乗船まで別れを惜しんで話したり、海士町の記念にと土産を買ったりとそれぞれの時間を過ごしました。海士町の父兄から、「来年は井原に行くからね」と言われ、私は、「お互いの事情があつて交流事業は今年で終わりなんです」と答えると、楽しみにしていたのにと残念がつていました。

見送りを受ける中、今までは、「さようなら来年は行くからな」、「さようなら来年来いよ」と言っていたのが、今年は「さようなら」さようなら元気でね」という別れで、本当にこれで最後なんだという思いになり、少し熱いものが込み上げてきました。

海士町の児童たちは、船を追いかけてお互いに見えなくなるまで手を振り、別れを惜しんでいました。



この三日間、病気や怪我もなく無事終了出来たのも引率者皆さんのご協力のたまものと感謝申し上げます。児童たちには、良い思い出となったと思います。最後に今後も海士町とは形を変えて交流を行いたいと思いますので、皆様アイデアを保存会にお寄せくださいますようよろしくお願い致します。



10/27 公民館グラウンドゴルフ大会

第2回県主グラウンドゴルフ大会が60人の参加を得て開催されました。競技は、小学生の部、一般の部に分かれ、交流を深めながら大会を終えました。

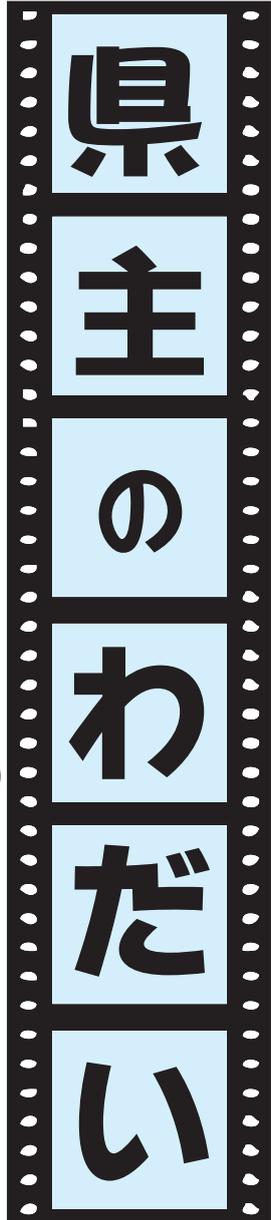


みごとホールインワン！



自治連合協議会女性部15名が、井原市婦人協議会の踊り連の一員として出場し夏祭りを盛り上げました。

8/4 井原夏祭りに参加



9月



学校支援ボランティア
小学校の家庭科の授業に出て
席し、ミシンの使い方について
指導・援助を行いました。

優秀選手を表彰

カヌー競技で中国大会に出場した北川菜々子さん、乃梨子さん、江里子さん、湧太郎さん、全国大会に出場した、馬越 響さん (Jr. オリンピック陸上競技)、松村 空 (高校総体レスリング) さんに激励金を贈呈しお祝いしました。





12/7 健康づくり研修会

社会福祉協議会では、定例会議の前に、消防署の蔵本哲治さんを講師に、AEDを使った救命処置について体験学習を行いました。



9月 サロン

サロンのすみれ会では、「わらいヨガ」を体験し、わらって健康づくりを実践しました。またコスモスの会（2部、3部）では、トントントートバッグ作りを行いました。



12/4 消防自動車

県主分団第一部の消防自動車が新しくなり、12月4日に交付式を行い、分団長・本部長・本部役員一部から部長以下が受け取りに参りました。



11/20 まちづくり推進協議会 定例会開催（隔月20日）

定例会を開催し、各部の取り組み状況を報告し共有化を図りました。また、井原市パートナーシップ事業の進め方について、協働推進課担当者より説明を受けました。





県主の農業の将来

みのりの里部会

部会長 森岡 通

今年も大きな災害もなく、豊作のうちに年の瀬を迎えることができました。

農業を取り巻く環境は、県主地区に限らず、長い年月の間には水害や日照りなどによる不作の年があったり、遠い過去にあつては戦争による働き盛りの男手(担い手)不足など過酷な苦勞もあつた中で、次の世代が幸せに暮らすことができるよう農業を守り続けてきた先人の苦勞の上に成り立っています。

今を生きる私たちも先人を見習い、先人が守ってきた農業を後世に残していく義務があるように思います。しかし、近年は大きく変貌した経済活動の影響で担い手である若者が農業離れしているのが現実です。さらに農業経営が専業農家として成り立つ規模でもなく、

県主においても少子高齢化の進展とともに農地の荒廃が年々目立ってきています。そして、農家の皆さんは先が見えない思いをされていると思います。

県主の農業の将来を考えると、今後は地域全体で経営的に成り立つ農業を進めていく必要があるのではないのでしょうか。そのためには、地域の皆さんが「知恵」と「アイデア」を結集して、土地(田畑)、労働力、資本(農業機械・施設等)を上手に活用し、地域全体が良くなる仕組みを作り上げていくことだと考えます。徹底した話し合いを行い、それぞれの世代間で、5年後・10年後の県主をイメージしながら、私たちの地域に合った農業経営組織(集落営農)を創り上げていくことです。



皆さんとともに、地域の農業の付加価値を高め、次代を担う子や孫たちに大きな財産として残して行くことはありませんか。



敬老会

自治会女性部

部長 要田千尋

平成24年度県主地区敬老会を9月9日に開催いたしました。

対象者261名。残暑が厳しい中49名のご参加をいただきました。

長寿と健康祈願の神事に始まり、連合協議会西本会長の挨拶、記念品贈呈、来賓の祝辞と式典は続きました。

- ◎敬老祝い金 88歳を迎えられた方9名
- ◎結婚記念写真 3組
- ◎米寿記念写真 4名
- ◎地区最高齢者 門田町

廣田久子様(99歳)皆様おめでとうございました。式典終了後、幼稚園児と一年生の心温まる可愛い演技に会場の皆様も和まれました。園児から敬老者へメッセージ入りの手作り葉が手渡され、嬉しそうに受け取られていました。真心こもった素敵なプレゼント



ントでした。次に、三橋美智也さんの愛弟子で多方面でご活躍されている津軽三味線「三橋美智憲会」6名の方々による演奏があり、昭和を代表する三橋さんの懐かしい歌と、バチを叩きつけるように弾く津軽三味線の迫力ある演奏が体育館に響きわたりました。津軽の響きを生で感じ、楽しんでいただけたとおもいます。敬老者の皆様、今後共健康には十分留意され、末永くご長寿を重ねられますようお祈り申し上げます。最後に、地域の皆様、役員の皆様には、前日の準備よりご協力とお力添えをいただきました。ありがとうございました。

井原市民 体育祭

井原市民体育祭を終えて

公民館

保体副部長 森下和美

10月6日、好天に恵まれた秋空の中、第50回井原市民体育祭が開催されました。

県主地区では8月中旬の保体委員会より選手選考に掛かり体育祭に備えました。

今年が入場行進に趣向を凝らし、県主地区のチームカラーである黄色の旗を掲げ元気よく入場しました。

競技はAクラス

ということで苦戦が予想されていきました。結果は各選手の奮闘にもかかわらず総合12位という成績にとどまりました。そのなかでもボール運びリレーでは1位の栄冠を受けるなど、面白い話題もあり選手団の



応援も一段とヒートアップしました。県主地区は過去



3位を4回獲得しています。Bクラスを3位以降、Aクラスが現状です。しかし、地区の潜在的な実力は十分あると思われ、成績が収められるよう今後も皆様のご協力をお願いします。

最後に、出場していただきました選手の皆様、選手選考にご努力いただきました各種団体・保体委員並びに、早朝より会場の準備や召集係として奔走いただき、無事体育祭を終えることができました。ご協力により、

ました消防県主分団の皆様、御苦労、ご協力により、無事体育祭を終えることができました。ご協力により、



第37回 県主ハウス祭り

公民館

文化部長 安木正明

11月11日曜日、「第37回県主ハウス祭り」が開催されました。雨天決行でした。日差しに恵まれた開催が何年も続いていたのですが、でも大勢の人たちが集い、そして盛り上がりました。

雨による予定変更もありました。1時15分からの「芸能大会」会場を急ぎよ体育館に移しました。観客のこと、舞台のこと、音響設備のことなどを考慮してのことです。少しスペースに余裕がなかったとしても、舞台がぐっと近づいた感じで、音響効果もよく大変盛り上



がりました。熱演でした。終了後は展示作品をあらためて鑑賞していただけました。

なんとといっても、テント村の運営は大変だったことでしょう。気温も低く吹き降りの中、ご苦労様でした。子どもたちが楽しみにしていた「電車」は運転開始を大幅に遅らせました。

今回新たに設置した「井原鉄道コーナー」も例外ではありません。初めての参加で慣れないところ、笑顔を絶やさずに最後まで付き合っていたいただきました。

展示場は今回も盛況でした。日頃から時間を惜しまずコツコツと作り上げた熱のこもった作品が、パネルやテーブル、壁面を埋め尽くしました。出品者も増えたようです。

みんなが参加して盛り上げ楽しむ「県主ハウス祭り」が、一気ではなくていい、少しずつ、さらに豊かな祭りになるよう祈るばかりです。最後にありがとうございました。関係者の皆さんに紙面を借りてお礼申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。



社協 森下和美

11月17日(土) 県主地区
社会福祉協議会の理事研修
視察が12名の参加のもと
開催されました。

今年の訪問先は久米郡美
咲町南地区、午前8時に雨
の中を出発、悪天候にもか
かわらず役員の方々にあた
たく出迎えていただき研修
先の公民館に到着しました。
研修ではお互いの活動に
ついて報告、意見交換を行
い、交流を深めました。

美咲町南地区は74戸、ほ
ぼ西方上自治連合会と同規
模の戸数の中で、安心生活
創造事業・環境美化・健康
づくり・自主防災事業など
に、積極的に取組まれてい
る様子がうかがえました。
たとえば、安心生活創造
活動では公民館の日を設け、
担当者が調理を行い参加者
と会食、参加できない人に
は各家庭を訪問し、配膳を
行いながらコミュニケーション
をとる見守り活動、

移動販売車による買物サー
ビスなどが企画されていま
した。
また、スライドによる活動
状況の紹介では、参加されて
いる方々の生き生きとした笑
顔を拝見し、活力ある地域と
いう印象を受けました。
安心・安全なまちづくり
には、まちづくり推進協議会・
社協・自治会など、地区内
の各種団体が連携して活動
していくことが重要である
との思いを新たにしました。
南地区の活動実態に目を
奪われ研修予定時間はあっ
という間に過ぎ、参加者全
員が充実感を持って美咲町
を後にしました。



公民館より

お知らせ君導入について

県主地区にもお知らせ
君が配布され、各家庭で
市内情報が定時に流れて
いることと思います。

お知らせ君は、県主公
民館からも情報発信がで
きます。各種団体の行事
案内など地区内全域への
情報提供にご利用くださ
い。

利用に関する問い合わせ
せは公民館主事までお願
いします。

社協より

県主地区社会福祉協議
会では出生のお祝いをし
ています。ご誕生され申
請されない方は地区担
当の民生委員又は、公民
館までお問い合わせくだ
さい。



ご寄付ありがとうございます
ございました

公民館へ

榎平 裕子様 (亡夫)
藤森 信行様 (亡父)

県主社会福祉協議会へ

藤森 信行様 (亡父)
窪木 晃雄様 (亡妻)
藤井 信也様 (亡父)
尾山 正信様 (亡母)
石本 雄一様 (亡母)

ご冥福をお祈り申し上げ
紙面をもってお礼にかえ
させていただきました。

編集後記

社協並びに公民館の
広報誌の統合を行い、
新生「みんなの県主」
の創刊に至りました。

地域の情報発信と
して更に充実させてい
きたいと思っております。
よろしく願います。

編集委員一同

